

加藤様、よろしくお願いします。

皆さんこんにちは。

ブラインドサッカーチーム埼玉 T.Wings でキャプテンをしています加藤健人です。

今日はよろしくお願いします。

ブラインドサッカーというスポーツは、簡単に説明すると、視覚に障害がある方でもサッカーを楽しむように、ルールを工夫しているのがこのブラインドサッカーというスポーツです。

なので、自分にも視覚に障害があります。

ぱっと見、見えているか、見えていないかわからないかもしれませんが、普段外を歩くときは、見えませんか、これを持って歩いて、白杖とって、皆さんも町とか駅とかで持ってる方を見かけたことがあるのではないかと思います。

自分は生まれつき視覚に障害があったわけではなくて、高校 3 年生の頃、病気で徐々に視力が低下していき、今は真っ暗な世界にいるわけではなくて、光を感じる程度に見えています。

例えば、電気がついている、ついていないとか、朝だと明るい夜だと、暗い、そういうのはわかったりします。

イメージで言うと、皆さんが軽くこのように、目をつぶってもらったのに近いかなと思います。

自分は 2005 年からブラインドサッカーを始めて、2007 年にブラインドサッカー日本代表に初めて選ばれました。

その後、2021 年までアジア選手権や世界選手権など、国際大会に出場してきました。

ブラインドサッカーは東京パラリンピックの正式競技で、オリンピックパラリンピックが東京に決まった以降、様々なメディアやイベントなどで知る機会も増えてきたと思いますが、まだまだブラインドサッカーを知らない方も多いと思います。

埼玉 T.Wings はさいたま市にあるレッツランドという施設を借りて、日曜日に練習しています。

主な最近の成績は、2017 年全国大会で準優勝、2018 年に全国大会で 3 位。

そして、2019 年の全国大会で初優勝することができました。

そして、昨年行われた LIGAi ブラインドサッカートップリーグというのが、昨年からはまったんですけども、優勝することができ、初代チャンピオンになることができました。

今年も第 2 回が行われていて、7 月 22 日に行われた第一節では、2 対 0 で勝利することができました。

第 2 節は 9 月 24 日、こちらオンラインでの配信がありますので、ぜひ見て応援してもらえたらと思っています。

チームは選手、ゴールキーパー、スタッフなど合わせて約 15 名ほどいます。

その中には、視覚に障害がある選手だけではなくて、視覚に障害がない方も、アイマスクをつけてチームに入って練習したり、試合に出たりしています。

他にも、年齢は 10 代から 40 代まで。

性別は男女関係なく、一緒にプレーしています。

また、学生から社会人まで、チームにはいろんな方がいます。

チームのビジョンはですね、視覚障害やブラインドサッカーを通して、一人一人の多様な生き方を尊重し、共生社会を実現するです。

ですので、練習して、試合の勝利を目指す、全国大会で優勝することを目指すだけではなく、ブラインドサッカーの見える人見えない人、障害あるなし関係なく一緒にできる、この良さを生かして、共生社会の実現を目指して活動を行っています。

練習や試合だけではなく、これはコロナ前の活動になってしまうんですけども、川越市にある視覚に障害がある方が行く盲学校があります。

その生徒さんにサッカー教室を行ったり、様々なイベントでブラインドサッカーの体験会を行ったりしています。このブラインドサッカーの体験会ですが、イベントだけではなくて、学校の授業や企業の研修などでも行っています。

体験を通して、ブラインドサッカーを知ってもらったり、視覚障害の理解だけではなく、コミュニケーションの重要性が伝わるのではないかと行って行っています。

ブラインドサッカーは、見えない選手 4 人と見えているゴールキーパー、監督、ガイド、この 7 人でお互い声をかけ合ってゴールを守ったり、ゴールを決めたりしています。

なので、コミュニケーションがとても重要になってきます。

その重要性を伝える一つの方法として、アイマスクをつけて体験していただき、見える人が見えない人にどう伝えるか。よりコミュニケーションが伝われば良いと思って行っています。

この体験では、相手の立場になって、声をかけるっていうのを伝えています。

コミュニケーションで相手の立場になって、声をかけるというのは当たり前のことですね。

でも、この当たり前のことを当たり前にやる。

これが意外と難しいのではないかと考えています。

普段皆さんが使っている言葉、ちゃんと相手に伝わっていますかということですね。

ちゃんと相手に伝わってなかったり、違う意味で伝わっていたり、もしかしたら相手を傷つけてることもあるかもしれません。

この体験を通して、改めて言葉についても考えてもらえたらと思っています。

自分は視覚障害の理解や多様性の理解だけではなく、もっと身近な人の理解を深めていく必要があるのではないかと考えています。

それは家族や友人、会社の仲間など、相手を理解するためにコミュニケーションが大切なんです。

身近な人の理解が進まなければ、多様性の社会には近づけないのではないかと考えています。

スポーツチームのサポートとなると、金銭面のイメージが強いと思いますが、金銭面だけではなく、一緒に活動することによって、改めて気づくこともあれば、新たに聞くこともあると思います。

練習や試合のサポート、体験してもらったり、体験会を開催したり、それだけではなく、誰もが住みやすいまちづくりなど、一緒に考えて形にしていく中で、新たな事業にも繋がるのではないかと考えています。

そして今回のタイトルにもありますが、ブラインドサッカーを通して人と人、人と地域をつなげるきっかけづくりができたらと思っています。

ぜひ、よりよい街づくり、皆さんと一緒に様々な活動ができたらと思っています。

埼玉 T.Wings の活動については、ホームページがありますので、ぜひこちらをご覧ください。

以上で、自分の話は終わりになります。

ありがとうございました。

加藤さん、ありがとうございます。